



DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N°84 janvier 2009 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

フランス「田舎の文化」を満喫

・・・日仏修好150年記念 リヨン、ブルゴーニュの旅・・・

11月の第3木曜日、ポジョレ新酒の解禁日を現地で体験することなどを柱に計画された旅には会員外をふくめた14人が参加、無事実りある旅を終えました。

前号に紹介した「旅の眼目」に沿ってその「成果」を列挙して報告といたします。

1. (食文化)

ワイン関係：ポジョレ・ジュリエナ村で新酒解禁日。ポーヌ市内のカーヴで銘酒各種利き酒、コート・ド・ニュイの「クロ・ド・ブジョ」訪問、シャブリ訪問など。

各地で賞味した料理：コック・オ・ヴァン、ポトフ、野うさぎ煮込み、フォア・グラ料理各種、エスカルゴ料理各種、鴨のマグレ、茸類と胡桃のサラダ、チーズ各種など。

2. 中世キリスト教を中心とした文化遺産

リヨンのサンジャン聖堂、バジリク・ノートルダム、ローマの劇場遺跡、パレ・ル・モニアルのバジリク・サクレ・クール、クリュニーの大修道院、ブランシオンのサンピエール教会、オータンのサンラザール聖堂、ポーヌのオテル・デュー（施療院）、ヴェズレーのバジリク・サント・マドレーヌなどを訪問、鑑賞。

3. (交流) リヨンでの交歓夕食会

リヨン大学留学中のグットマン本会理事をはじめ、リヨン在住の北浜クニオ・レイコ夫妻、かつて三重大学に留学していたフランス人学生4人らと再会、歓談。

近年、ことバス・トイレ事情に関しては世界一清潔で便利な日本に住みなれたわれわれとしては、フランスの、特に地方の「伝統的な」設備に戸惑う面も多々ありましたが、これもかの国の「生活文化」を知る経験でありました。（3ページに関連記事）

水の都紀行

～湖と二編の詩～

外科医 矢野 隆嗣

一昨年のこと、パリに留学中の娘に恋人ができた。

娘の住まい（studio）に招いたり、夏休みは、彼の実家に招かれ、ひと夏世話になったという。その彼が来日した。頑固おやじが帰国した娘にカミナリを落としそうな局面。ところが、なかなかいい男なのである。かなりの日本通で村上春樹作品はほぼ読了し、吉川英二の「宮本武蔵」まで読んでいた。和食も納豆以外はすべて楽しんで食べる。我が家に滞在して、伊勢志摩、京都などへ連れてまわった。お世話したことが縁で、昨夏われわれ夫婦も渡仏し、彼の実家で一週間お世話になった。

彼の故郷はフランスの南東部、スイス国境に近いサヴォア県。ジュラ山脈とアルプス山脈に挟まれるようにしてフランス最大の湖ブルジェ湖があり、その東岸にある美しい湖畔の街がエクス・レ・バンである。ローマ時代から温泉保養地として知られ、水の都と呼ばれる。

この街に住む彼の両親や親戚の人々がわれわれ夫婦を温かくもてなしてくれた。美しい湖やアルプスの山々を眺めながら、サヴォアの郷土料理を心ゆくまで味わった。シャンピニオン（白いマッシュルーム）が入って、すこしほろ苦いフォンデュはくせになりそうなくらい美味しかった。熱く溶けたチーズ（ルプロション）にポテトやベーコンの入ったタルティフレットはレシピを買い求めたほどである。爽やかなサヴォワの白ワインに酔いながら、白夜のように長い夏の夜を楽しんだ。

彼の叔母が、ブルジェ湖を見下ろす小高い丘の上に建つラマルティエヌの胸像に案内してくれた。ロマン派の代表的詩人で、エクス・レ・バンを舞台に恋人への思慕をうたった「瞑想詩集」は世界中の人に愛されている。彼女がその詩の一節をくちずさんだ。

絶えず新たな岸边へと押し流され、
永遠の闇の中を、戻ることなく運び去られるわれら歳月の大海原に、ただの一日さえ、
錨を下ろすことも叶わぬのか？

ジュネーブに近いアヌシーも湖畔の美しい街で、この街もまた水の都と呼ばれている。ここに住む彼の祖母の家を訪ねた。祖父は第二次大戦中パルチザンだった。レジスタンス活動に従事する者の多くは森の中に隠れて戦ったという。懐旧談の中に、ヴェルレーヌの詩、「秋の歌」があらわれた。

秋の日の ヴィオロンの
ためいきの 身にしみて
ひたぶるに うら悲し

ナチスに占領されたフランスを、連合国が助けに来る日、つまりノルマンディー上陸作戦の決行の日。その決行の合図は、BBCのラジオ放送に暗号として流れた。それがヴェルレーヌの詩「秋の歌」だった。

ジュラの森の中で、このBBC放送を傍受した彼は仲間たちと欣喜雀躍したという。

毎日あくせく過ごしていた日本を離れ、フランスの美しい湖の街で、ふと二編の詩にふれた私は何かを促されたような気持ちになったのである。

ふたたびラマルティエヌ「瞑想詩集」の一節から一、

なれば愛さん！ なれば愛さん！
我らいそぎ楽しまん 移ろいやすき刻一刻を
人には寄る港とてなく、時には寄る岸边もなし、
時は流れ、我ら過ぎ行く

この詩行はアヌシーで静かな老後を過ごす彼の祖父母を思い起こさせ、ついで私自身に残された時間について考えることを促してくれた。そうして、今からが人生のharvest timeなのだ気付いたのである。フランスの二つの水の都を訪ねた、ひと夏の「二都物語」。

… 2008秋 フランス旅行 こぼればなし 余聞 …



リヨン・ブルゴーニュ旅行参加者（会員外）の一人から世話人に宛て、こんなハガキをいただきました。

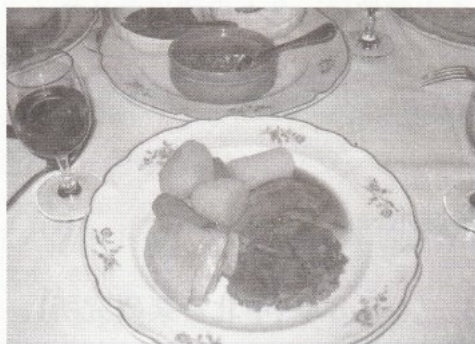
「今までにない心に残る思い出の旅となり本当に感謝しています。美味しい料理とワイン！広大なメルヘンのような風景！古城近くの時代を経たオーヴェルジュでの宿泊と手作りジャムのお土産！そして何よりもブランシオンの有名な中世の聖堂で＜アヴェ・ヴェルム・コルプス＞を歌えたこと！夢のようでした。」
(町井三重子)

ブランシオンの聖堂というのは、ブルゴーニュ南部の寒村に12世紀に建立されたサンピエール教会のことで、小さいがその簡素な品格は「ロマネスク建築の宝石」とも言われています。一行でここを訪れたとき、近所の人に鍵を借りて扉を開けお堂に入りましたが、その荘厳な空気の中、期せずして（出来心というべきか）日ごろそれぞれコーラスに親しんでいる3人のメンバーが祭壇に上がり、アカペラ（まさに a cappella = 礼拝堂風に）でモーツアルトの「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を歌い始めたのです。900年を閲した石造りの聖堂の音響効果は考えられないほどすばらしく、たった3人でも聖歌隊のようなハーモニーを醸し、当人たちも聞き手もうっとりという一幕でした。

意外や静謐なボジョレ・ヌヴォーの夕食 地元の新聞にも紹介される

パリやリヨンでヌヴォー解禁のにぎやかな夜を経験したことのあるメンバーは、本場のボジョレ周辺の地域ではさぞかし盛り上がるものと想像して出かけたのですが……。昼間訪れたボジョレのジュリエナ村もわれわれのほかに外来者は見当たらず、その夜宿泊したパレ・ル・モニアルの町など、まさに静謐で宗教的雰囲気さえ漂っていました。行ってみてわかったのですが、このあたりではボジョレ・ヌヴォーの夜は皆さんポトフを食べることになっていて、町中のレストランはすべてポトフ・オンリーで予約済みとのこと、地元旅行社の女性の紹介でやっと夕食直前に一軒のレストラン「3羽の鳩」を確保しました。食事は地元の家族たちのグループと隣り合わせでしたが実に静かなもの、わずかに隣室のステージらしきところからギターの生演奏の音が聞こえていたのみ。ポトフは当地の有名なシャロレ牛とジャガイモ、大根、にんじんなどが大きく切って煮込まれ、薄味だから好みで芥子や岩塩をつけて食べます。もちろんボジョレとともに。

思わぬことに、このわれわれの夕食が地元の新聞＜ジュルナル・ド・ソーヌ・エ・ロワール＞紙の取材するところとなり、＜パレのポトフ＞という大見出しで他の九つの現地のパーティーともども写真入りで報じられたことは、後日旅行社の女性から送ってもらった新聞で知りました。(M, I 記)



1/30 アテフ・ハリム ヴァイオリンリサイタル (後援事業)

エジプト生まれのフランス人で、若くしてフランス国立管弦楽団のコンサートマスターも務めたことがある実力派ヴァイオリニスト、アテフ・ハリムさんの演奏会が津市で開催されます。氏は大の日本びいきで、日仏協会のメンバーとの交流も望んでいます。

日 時：1月30日(金) 19時開演
 場 所：三重県総合文化センター小ホール
 ピアノ：新里恵美
 プログラム：ベートーヴェン ソナタ第10番
 ほか「チゴイネルワイゼン」や日本の歌など名曲数々
 チケット：3,500円 (残券あり、ご希望の方は事務局・滝澤または井土まで)
 ※なお演奏終了後、ハリムさんら演奏者を囲んでの懇親会が予定されています。
 会場近くの「農場レストラン」で、会費は2,000円。

3/21 柏木隆雄先生「文芸講演会」

＜青年の詩、老年の詩…中国、フランス、イギリスの有名詩を材料に…＞

このところ3月恒例となった柏木先生の講演会を今年も下記のように開催します。一般公開 (入場無料) ですのでお誘いあわせてご来聴ください。

(柏木先生より) 芥川龍之介が中学生時代にもっとも愛した唐の詩人李賀の酒を褒める詩と、16世紀フランス最大の詩人ロンサール「バラを摘み取れ」の詩、そしてシェークスピアの絶唱「君をたとえるなら夏の日か」を丁寧に読んで、やさしくて味わい深い古典の魅力を紹介したいと思います。

日 時：3月21日(土) 午後2時30分より4時30分まで
 会 場：ホテル・グランコート津西(津駅西口から南へ3分、旧丸二ホテル) 会議室
 講 師：柏木隆雄先生 (放送大学大阪学習センター所長・前大阪大学文学部長)
 ※なお講演終了後、先生を囲んでの懇親会(会場未定)をおこないます。
 参加希望者は当日受付で申し込んでください。

4/23 菅原美枝子ピアノリサイタル (後援事業)

…19世紀のヴィルトゥオーゾNo.2…

本会会員・菅原美枝子さん(名古屋芸術大学教授) 久々の津でのリサイタル、今回は「ショパンの夕べ」として、バラード第1番、4つのマズルカ、華麗なる大円舞曲などショパンの名曲の数々が演奏されます。

日 時：4月23日(木) 午後7時開演
 場 所：津リージョンプラザ お城ホール
 チケット：3,000円
 お問い合わせ：080-6901-4589(中北音楽研究所)